

## SDGs × 共生会のビジョン

### 私たちが**持続可能な社会**のためにできること

SDGs(エスディーゼーズ)とは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で決められた、国際社会共通の目標です。世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるために世界各国が合意した17の目標と169のターゲットです。共生会でも日ごろの活動に目を向け理念に沿った活動を行っています。



- ・SDGsとは、貧困や不平等・格差、気候変動など様々な問題を根本的に解決することを目指す世界共通の17の目標です。
- ・共生会では『共に生きる』という運営理念のもと、私たちが提供する福祉サービスを通じて、私たちに関わる全ての人が幸せになれるような法人を目指し活動しています。これからも、私たちは、障がいのある方が、希望に満ち、社会で生き生きと活躍するなど、生き甲斐のある人生を送ることができるようしっかりとサポートするとともに、誰もが暮らしやすい社会の実現を目指してまいります。
- ・障がい者福祉という小さな枠組みから飛び出し、地域福祉・地域貢献していくその姿こそSDGsの基本的な姿であり、本当の幸せへ進むための共生会が目指すべきビジョンです。

### 共生会の重要課題

共生会は、社会・経済・環境への影響について把握し、より効果的な活動につなげるため、優先的に取り組みを強化すべき課題を、地域に根ざした福祉サービスを提供する共生会にとっての重要性の視点から選定し、重要課題を選定しました。以下の通り、4つの柱のもと10の課題に重点的に取り組んでいます。



## I. SDGs × 障がい者・児福祉サービス



### 地域に根ざした福祉「共生」

1. 障がい者(生活介護・施設入所・  
自立訓練・就労支援・相談支援)
2. 障がい児(通所支援・相談支援)

### 共生会が実施している障がい者福祉サービス事業

その中でも、主たる事業は、地域の障がい者に『生活の場』を提供する生活介護や、『働く場』を提供する就労継続支援、『療育・支援』のための障がい児支援を実施しています。

＊生活介護:常に介護を必要とする障がい者に対して、障がい者支援施設において、主に昼間に、入浴・排せつ・食事の介護等を行うとともに、創作的活動や生産活動の機会を提供します。

＊自立訓練:理学療法、作業療法その他の必要なりハビリテーション、生活等に関する相談および助言などのサービスを提供します。

＊就労継続支援 B 型:ご利用者全てに、日中働くことによる健康と福祉サービスを提供し、今まで働くことが難しかった障がい者の働きがいを作りだし、就労機会と生産活動を通じて次のステップを目指すサービスを提供します。

＊障がい児通所支援:障がい児を保護者のもとから通わせて、日常生活における基本的動作の指導、独立自活に必要な知識技能の付与又は集団生活への適応のための訓練を提供します。

＊相談支援:障害福祉サービス等の利用計画の作成(計画相談支援・障害児相談支援)、地域生活への移行に向けた支援、必要な情報の提供、障害福祉サービスの利用支援等のサービスを提供します。

## II. SDGs × 働き方改革



### 働き方改革

1. 働きがいの創造(人材育成)
2. 虐待防止・差別禁止の体制

・共生会は、働き方改革の中でも特に女性の活躍に重きを置いており、当法人も管理職に女性を複数登用しております。しかし、私たちは女性・男性の区別はすることなく全ての職員は平等であり、運営理念の『共に生きる』ジェンダーフリーな環境のもと働きがいを創造していきます。

・介護職を目指す人を増やすだけでなく、今働いている人の定着率を上げる取り組みを行い、介護職の給料改善とやりがいの持てる職場づくりを促進します。

・児童虐待・障がい者虐待の禁止、虐待をなくすためには、虐待はいかなる理由があっても禁止されるものであるという認識を法人全体で共有する必要があり、そのためには、虐待を絶対に許してはならないという強い姿勢をもち、私たちは、障がい者・児の自立の支援を行います。

### Ⅲ. SDGs × 地域支援



地域ネットワーク

1. 高齢者見守り支援
2. 子どもの貧困支援
3. 障がい者がすみ続けられる町づくりの参画 (大規模災害時の役割)

・共生会は徳島県に高齢者等見守り支援団体に認定されており、障がい者が主役となり地域社会の軸となって、高齢者や障がい者の買い物支援を行います。更に法人が運営するきららカフェが『ユニバーサルカフェ』としての認定も受けており、地域のお子さまから高齢者の方が自由に交流できる場の提供を行います。

・共生会は、子どもたちの貧困に取り組むべき「子ども食堂」を運営します。子どもたちの食事提供の場以外に、人が集まり人が育てていく、地域の方々のコミュニケーションの場としての機能を発揮します。

・共生会は、町内外で実施される様々な取り組みに参加し、町民及び町内事業所とのネットワークを深め、すべての人が住みやすく、いつまでも住み続けられるまちづくりに積極的に参画しています。その一つに、防災型地域交流スペースを設け、『障がい者・児の安全・安心を守る防災拠点』として、大規模災害時には地元の障がい者・児の福祉避難所として指定されています。

### Ⅳ. SDGs × エシカル



エシカル消費

1. 環境に配慮された消費
2. 人に配慮された消費
3. 地域に配慮された消費

・法人が運営する、「食彩工房かがやき(食品加工場)」における、地域資源を生かした魅力ある食材を「地域ブランド化」する美味しいスイーツの製造販売、手作りお弁当や加工食品、日用品を高齢者等の家にお届けする移動販売車「彩市場かがやき号」や、地域とのコミュニケーションを図る「きららカフェ」などの活動は、障がいのある方が就労の喜びを味わうだけでなく、みんなが地域を支える社会の一員として役割も担っています。

・『阿波ベジ(阿波市で採れた野菜)』等、地元の食材や体に優しい食材を使った安心・安全な商品を開発することが健康につながると考えています。更に、地産地消の取り組みは生産と消費を結び付け、「顔が見え、話ができる」関係づくりを行うことで、安心・安全な商品を提供します。

・食品ロス削減対策として、容器包装の工夫や賞味期限等の延長、一人前ずつの個包装による食べ残しを防いだりする取り組みを行っています。主に、お弁当や焼菓子については、予約注文を中心に製造販売しています。他にも様々な工夫をすることで、廃棄ゼロを目指しています。

・「環境にやさしく」の実現:①生物由来の有機性資源を有効利用したポリエチレン配合のレジ袋の使用、②衛生面に配慮してペーパータオル等の使い捨て製品の使用の自粛、に取り組めます。